

研究課題 (テーマ)	教育用電子カルテ教材「Medi-EYE」とバーチャルコミュニティを統合した ICT 活用型シミュレーション教育システムの開発 —看護基礎教育における教育用電子カルテの使用体験—		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	講師	杉山由香里
分担者	看護学部看護学科	准教授	小林絵里子
	看護学部看護学科	助教	竹口将志
	看護学部看護学科	助教	室谷寛
	看護学部看護学科	講師	中堀伸枝
	看護学部看護学科	助教	村上利矢子
	看護学部看護学科	助教	岡田麻代
研究結果の概要			
<p><u>発表演題1：A大学の看護学生における教育用電子カルテを使用した代替実習の体験</u></p> <p>効果的な代替実習方法の基礎資料とすることを目的とし、看護学生の教育用電子カルテ（以下、電カル）を用いた代替実習の体験についてインタビュー調査を行った。その結果、学生は代替実習で“演習で使っていたため情報収集しやすい”と＜使用経験による使いやすさ＞を感じ、“いつでも情報が見られることで進めやすい”と＜電カルの利用時間が無制限＞だが、“実習のときは素早くやらなきゃいけない”と＜演習と違う短期間での展開＞から、“知りたい情報を探して見る”と＜情報収集のアプローチの工夫＞を行っていた。更に代替実習として電カルを使用することで“臨床で教わって情報収集の流れをつかんだ”と＜情報収集力向上の実感＞を得ていた。また、“中断せずに実際と同じように実習できて良かった”と＜代替実習の肯定＞をし、“計画まではできた”と＜実習としての達成感＞を感じていた。一方、“ケアの計画を立てておしまい、ケアの実践はできない”などの＜実践を伴わないことによる不全感＞と“更新されないから、本来に近い形ではない”など＜情報が更新されないことによる不全感＞を感じていたことが明らかとなり、思考と実践を繋ぐ教育的な工夫によって学生の代替実習における達成感が高まると考えられた。本研究結果は第44回日本看護科学学会学術集会にて発表した。</p> <p><u>発表演題2：看護大学生の教育用電子カルテ教材の用いた演習の体験</u></p> <p>看護基礎教育の演習科目で電カルを使用した学生の体験を明らかにすることを目的とし、演習科目で電カルを使用した学生16名にインタビュー調査を行った。その結果、学生は、電カルの使用を肯定的に受け止め、＜電カル教材の使いやすさの実感＞＜電カルへの興味＞をもっていた。また、情報収集では＜手探りでの情報収集＞＜意図的な情報収集の試み＞をしており、紙媒体での事例提示と比較し＜事例への興味の広がり＞や＜情報収集過程での成長の実感＞を感じていた。一方で、＜電カルへの抵抗感＞や＜学習意欲の拡散や停滞＞と否定的な受け止めをしており、電カル導入には抵抗感の軽減や学生の学習意欲の持続できる工夫が必要であると示唆された。本研究結果は第35回日本医学看護学教育学会学術学会にて発表した。</p>			
今後の展開			
本研究結果をもとに、教育用電子カルテ教材における課題を整理し、効果的な学習ができるよう、授業設計と対応させた学生の体験や評価を明らかにし、より実践的な教育用電子カルテ教材の活用方法の検討を進めたい。			

(様式1)【ホームページ掲載用】